

Vol.182



かけはし

理念

すべては患者様と  
地域社会のために

発行責任者 病院長 佐々木 順子

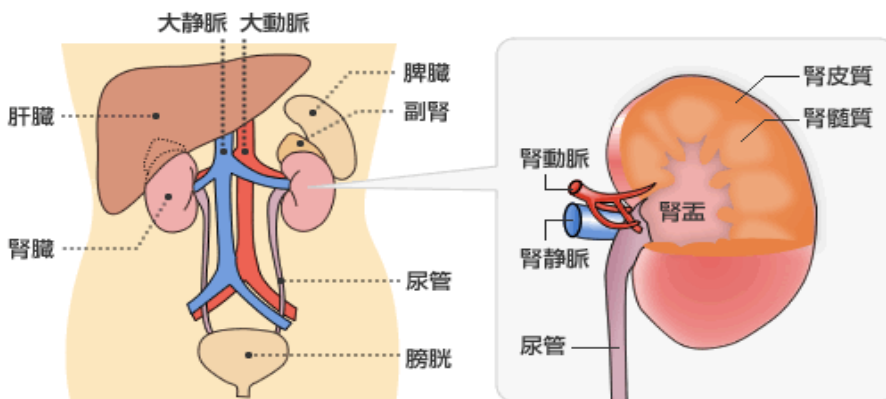
病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

## 腎臓内科・人工透析室紹介

腎臓内科・人工透析室  
医長 柿田 直人

当院では腎臓を専門に診療する科として、腎臓内科と人工透析室があり、専門の医師が兼任で治療を担当しております。腎臓は背中側の腰骨の上のあたりに左右1個ずつあり、握りこぶし大の大きさ（約150g）で、そら豆のような形をしています。



腎臓は体の中の余分な水分、老廃物を尿として体外へ出す働きをされていて、この働きが悪くなった状態を腎不全といいます。その程度が高度になると腎臓の働きを代替えるために透析療法が必要となります。

近年、糖尿病や高血圧による腎臓の機能障害の患者さんが増加しており、それにより透析療法を施行中の患者さんも増加傾向にあります。

貧血、疲労感、むくみなどの症状が現れたときには、腎不全が進行している可能性があります。腎不全はある程度病気が進行しないと症状がでにくいことが多く、発見が遅れることがあります。そのため、定期的な受診によって現在の症状を正確に把握し、腎臓障害の進行を少しでも遅らせることが大切です。早期発見、早期治療が重要です。

健康診断にて尿蛋白などの検尿異常や腎機能障害を指摘されたことがある方は遠慮なくご相談ください。

また当院は院内に透析室を有しており、安全で快適な医療をご提供できるように対応しています。腎臓内科と人工透析室を兼任することで、血液透析が必要になった場合でもスムーズに診療が継続できる体制を整えております。

血液透析に必要な不可欠であるシャント（バスキュラーアクセス）のトラブルについても対応いたしますので、気軽にご相談ください。

お問い合わせ先 内科受付

外線 078-672-2619  
内線 8-63-22619

## 新事務長ご挨拶



事務長  
青野 大樹

このたび、平成30年7月から事務長に就任いたしております青野と申します。これまで当院では、杉本事務部長が事務長と事務部長を兼務しておりましたが、現在は事務部長の杉本と事務長の青野による体制で業務に取り組んでおります。着任から2か月あまりと、まだ短い期間ではありますが、急性期病院として、患者様の生命と健康を守り、地域医療の一翼を担う当院の使命の重さを実感する毎日です。医療を取り巻く環境は急速な少子高齢化や、医療費の増大など厳しさを増すばかりですが、今後も患者様の御健康、当院と地域医療の発展に寄与できるように、元気よく職員と共に全力を尽くして参りますので、今後とも御高配の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## レスパイト入院のご紹介

### レスパイト入院について

レスパイトとは「一時休止」「休息」「息抜き」といった意味の言葉です。レスパイト入院とは、障害をお持ちの方や、ある種の難病をお持ちの方の在宅ケアをされている介護の方が、介護者の事情で一時的に在宅介護が困難になった時に、短期間病院に入院して頂くことを指しています。例えば介護の方が病気になるってしまった場合とか、冠婚葬祭のためにどうしても一定期間、家をあけないといけない場合などです。当院ではこういった介護の方がお困りの時に、お力になれるようにとレスパイト入院を積極的に受け入れています。そのような御希望のある方や、話を聞いてみたいという方は、当院の地域医療連携室まで気軽にご連絡下さい。

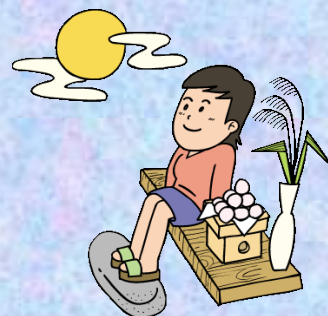


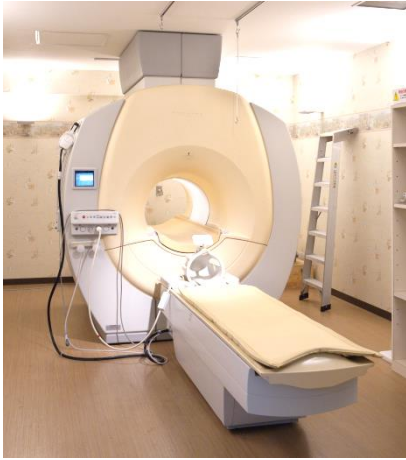
お問い合わせ先 地域医療連携室 外線 078-652-8271  
内線 8-63-28271



内科の入院係を変更します。

- ・従来 松本副院長
- ・新規 (平成30年9月1日から)  
(正) 上田循環器内科部長  
(副) 吉野内科医長





## MRI検査のご紹介



画像技術科  
山田 達也

### Q: MRIってどんな検査？

A: Magnetic Resonance Imaging磁気共鳴画像の略で、磁力を利用して体内の水素原子からの信号を受信し、解析を行い画像化する検査です。CTのようにX線被ばくがなく、定期的に検査することが大切な検診には最適な検査といえます。様々な撮像方法があり、立体画像や動画のほかに、より詳細な心臓の画像を得ることができます。

### Q: なぜ大きな音がするの？

A: MRI検査時の音は、スピーカーと同じ原理で発生します。MRI撮像時に強力な磁石の中にある傾斜磁場コイルに電流を流すと力が生じ、傾斜磁場コイルが振動します。その振動エネルギーが磁石本体などに伝播することによって音が生じます。

### Q: MRIとCTってどう違うの？

A: 画像を得る手段が違います。どちらも主に形態画像を取得する装置ですが、最も大きな違いは画像を得る手段です。CTでは“X線”を使って画像を得るのに対し、MRIは強力な磁石による“強い磁場”とFMラジオに使われているような“電波”を使って画像を得ます。そのため、MRIは放射線による被ばくがなく、小児や健常な方も安心して検査を受けることができます。しかし、強い磁場を使っているため、MRIならではの制限や注意事項があります。

### 【MRI検査を受ける際に注意すべきこと】

基本的に、MRI検査には金属は禁忌です。MRIは強力な磁場が常に発生していますので、金属が存在した場合、吸引される可能性があります。また電波を使用していますので、その金属が発熱する可能性もあります。したがって、検査する部位に関わらず、外せる金属は外す必要があります。外すことのできない金属がある方は検査を受けられない場合があります。特にペースメーカーを装着されている方は、原則MRI検査を受けることができません。しかし最近では特定のペースメーカーであればMRI検査を受けることが出来ます。但し、すべての医療機関で対応しているわけではないため、事前に確認する必要があります。

また以下に該当する方は、手術を受けた病院や主治医にMRI検査を受けてもよいのか事前に確認するようにしましょう。

- 心臓の手術（ステント留置術、人工弁膜術など）
- 脳の手術（脳動脈クリップ、コイル塞栓術など）
- 骨折の手術（体内にボルトが入っている）

体内だけに限らず、他にも金属といわれるものは多く存在します。何かご不明な点がございましたらご相談ください。